

中国の人たちに対して、ヘイトスピーチやってるんじゃないんです。

中国の方々と、今の習近平一党独裁体制の政権とを分けて、今の中国の体制について・その国がやろうとしている事について・彼らは何をしようとしているのかという事について、お話したいと思っています。

というのは、昔何かで読んだ詩が思い出されてならないんです。それは、ヒトラーのナチス・ドイツがドイツを制圧した時に、抵抗運動をしたプロテスタントの牧師の詩です。マルチン・なんたら、名前忘れちゃった。うろ覚えで申し訳ないんですけど。

『ナチスが共産主義者を逮捕した時、私は何もしなかった。共産主義者じゃなかったから。ナチスが労働組合員を捕えて行った時、私は声を上げなかった。労働組合員じゃなかったから。ナチスがユダヤ人を逮捕して行った時、私は何も言わなかった。私はユダヤ人じゃなかったから。ナチスが教会を弾圧し始めた時、私は抵抗した。しかし、手遅れだった。』
今声を上げないと取り返しがつかなくなるという事は、しばしばあるんですよ。

中国はパンデミック騒ぎを利用しようとしています。今色んな所で「パンデミックはどこが悪い・あそこが悪いとか言ってる場合じゃない。これは人類共通の敵だから、一致団結して、心一つにして立ち向かって行くべきだ!」。建て前はそうでしょう。

だけど、現に中国はパンデミック騒ぎを利用して、アフター・コロナ/パンデミック騒ぎが終わった後、「ふと世界を見渡してみたら、中国中心で世界が回っている」ような状況を作り出すために、次々と手を打っているのです。

アメリカも中国を何とか追い詰めるために、この大騒ぎの問題を活用しようと策を練っています。昨日トランプ大統領が、国民に向かって演説をしました。これは戦時演説と同じですよ。アメリカは個人主義だと言いますが、一旦戦争になると国がバチッとまとまります。

「我々が必要な物が中々手に入らない。」それで、アメリカの主要産業・各ジャンルのトップ企業ばかりを集めて、「今自動車作るの止めて、マスク作ってくれ。電子部品作るの止めて、人工呼吸器作ってくれ。」つまり、今は戦争中で、国家総動員法みたいな感じでやっていますが、まさに、トランプ大統領が言っている事は正しい。

日本にいと中々報道を聞く事はできないけど、トランプ大統領が何に怒っているのか、要約すると3つだと思います。

①**中国の隠ぺい工作に対する怒り**；隠ぺいしたのは、コロナのパンデミックが起きている時に、それを認めなかったという事だけじゃないんです。今から説明します。

中国で、新型コロナが最初にマスコミに登場したのは去年の11/17。

この時「どうも、SARSのような肺炎患者が増えてるぞ」みたいな事が言われたけど何もしなかった。

12/8、武漢の医師たち8人がSNSで「最近、SARS そっくりの患者が随分増えて来ているよね。」SNS仲間でないで見ることができない情報だったのが、何かでこぼれたんです。

“ここだけの話”って、こぼれますわ。SNSでも。それが当局に知れて「デマを流すな!」

12/30、8人の医師たちが、デマを流したという事で、拘束されて訓戒処分を受けました。

実は11/7に始まって、そのままほったらかしているのです、その間に猛烈な勢いで増えてたんですね。

1/23、習近平は遂に武漢をロックアウトしました。都市封鎖。高速道路も電車もバスも交通機関は一切シャットアウト。人口 1100 万の武漢が閉じ込められてしまったのです。

なぜ 1/23 にやったかという、1/24 から春節。春節は中国の新年の大型連休で、1/30 まで続き、延べ 30 億人の人口移動があるんです。

1/23 にロックアウトされるという事が分かったので、その瞬間に武漢から 500 万人が逃げました。

この 500 万人が中国全土・及び海外旅行に出て行って、これが感染の始まりですよ。

この期に及んで WHO は「非常事態宣言はまだ時期尚早」と言っていたけど、1/30 になって、ようやく非常事態宣言を出しました。

という事は、11/17 からものすごい時間が経っているんですね。ここにきて「大変だ」という事で、それを認めて行くけど、「初期に抑えていたら、こんなに感染しなかったじゃないか!」となっている。

実は、もう 1 つ隠ぺいしている事があるんです。1 月の頭に、共産党当局は海外に展開している中国の商社たちに、「世界中の先進国の感染防止のための医療用品を、全部買い占めて中国に送るように」という命令を出しているんです。

これは、オーストラリアの『シドニー・モーニング・ヘラルド』という新聞が 3/26 に特集を組んでいます。それによると、色んな国の医療用品の在庫が空っぽになるまで全部買い占めて、中国にどんどん送れと。それが完了するのが 1 月末です。つまり、1 月頭になるまでに新型コロナが蔓延した事によって、中国は感染阻止のために何が必要なのかよく分かった。ので、それを感染する前の西側から買い占めて…。

例えば、オーストラリアに『グリーンランド・ホールディングス』という中華系の大きな不動産会社がありますが、不動産業務を一旦やめて、とにかく世界中の医薬品の買い付けやれ! マスク・ゴーグル・手袋・防護服・消毒液とか。ここの会社だけで、ひと月に、外科用マスク 300 万枚・医療用防護服 70 万枚・医療用手袋 50 万枚・消毒液 10 トンですよ。つまり 1 月の段階で、これから蔓延するであろう国から、必需品を全部持ち去った。

そして 2 月・3 月に入って、この病気が全世界に蔓延しました。ところがその時、自分の国にあるはずの必需品の医療用品が全部無いんですよ。そら、無いでしょ。中国がかき集めたから。

中国は、蔓延したら西側諸国がいかにダメージを負うかを考えて、1 月頭に既に動いていたのです。

そして、集めた医薬品を外交手段として使い始めました。ある国には無償で。ある国には有償で売りつけて。有償の方がまだいい。だって中国だから。タダより高いもの無いですよ。

健康シルクロードとか言って、「医師の派遣だけでなく、必要物資・医薬品や貿易のための必要な医療用品を上げます!」。もらう時の条件は、その国のインターネット・インフラにファーウェイを使う事。

助けてやってるみたいに見えるし、実際に物が無い時、持っている所から助けてもらったらありがたいと思うかもしれないけど、これは、放火犯が消防服を着て「助けに来たぜ」と言っているのと同じじゃない? よく言うよと。それだけじゃない。

アメリカに対しては「お前らがばら撒いたんや!」みたいな。いや、ばら撒いたという前に、欧米が感染拡大で、どうにもならないような状態になっている時に、「俺んどこ、見てみ? 中国完全封鎖。皆、民主主義がいいと言ってるけど、迅速な決断で完全にシャットアウトしたのは我々だ! 我々を見習え!」

昭和の初めに“説教強盗”ってあったの、知ってます？ 妻木松吉（つまき まつきち/1901-1989）。4年間で100件くらい強盗を繰り返す。この男、強盗してすぐに去らず、去る前に「お前ら、座れ！」と被害者たちを座らせて、「何で強盗に入られたか分かるか？ 戸締り甘いからや！」「犬でも飼(こ)うとけ！」「隙があり過ぎるから俺に入られるんや！」と、加害者が被害者に向かって、上から目線でお説教する。余りにも滑稽なので“説教強盗”。映画にもなりました。

その国家版が習近平の中国。挙句の果てに、官製マスコミを使って「コロナウィルスは、アメリカの軍人が武漢に持ち込んだ。」外務省のスポークスマンが、ツイートみたいなのに「アメリカが中国に持ち込んだ生物兵器だ」と書いたりしました。これが中国なんです。自分の都合の良いように事実を捻じ曲げて。それを何回も何回も言って。世界はこれをよーく見ておくと良い。

中国が言っている従軍慰安婦の問題についても。南京30万人虐殺とか、年によって10万人が20万人、20万人が25万人、25万人が30万人って、その都市の人口よりはるかに多くなって。でも、それを信じている人たちが、世界のあちこちにいっぱいいるんですよ。

大学で歴史を学ぶ学部は文学部/史学科です。歴史は文書で確認するから。ところが、中国の史学科は政治学部なんです。つまり、歴史は政治上有利になるために、いくらでも加工できるという考えですね。

今中国が全力を挙げているのは、この問題を通してワクチンを作る事です。ワクチン作りは、今世界70の研究所・企業・大学が競争していますが、西側で一歩前に出ているのがオックスフォード大学のグループで、9月に立証実験始まるって。

しかし、オックスフォード大学に肩を並べているか、ちょっと抜き出ているのが中国。なぜ中国？他の国より2か月早く検体を持っていたから。スタートラインが同じじゃない。彼らは世界で最初に発症させているから、取り組むための時間も2か月以上長い。

中国がこのワクチンを握ったら大変ですよ。薬を作るのは、もちろん絶対大切です。今危機にある方々がいるので、その方々には薬が絶対大切。だけど長期的に見ると、ワクチンを握る者が世界を握るんです。

もしワクチンが無かったら、来年7月の東京オリンピックは限りなく難しいと思う。3密を兼ね備えるのがオリンピックだから。ワクチンを少なくとも1月・2月の段階で、実践的に実用できるころまで持って行かないと7月に間に合わない。量産しないとダメだから。何十億の単位で量産をしなければならない。しかもワクチンは、打ってすぐ免疫ができるんじゃないんです。時間がかかる。

どこの国の研究者も、いずれかはワクチンを作ると思うけど、7月に東京オリンピックを控えている日本としては8月・9月では遅い。中国が真っ先にワクチン開発して、日本にカードとして使わないはずがないじゃないですか。

この国は、ありとあらゆる事をやりますよ。“カードに使う”という事を覚えておきたいと思うんですね。これは、隠ぺいで引き起こされた事を、いかに自分たちに有利にするか、活用しているという事です。

②重症化したコロナ肺炎患者の救済に、臓器移植で対応している事への怒り；特にアメリカ議会が怒っている。中国の新聞が書いていた事です。無錫（むしゃく）市にある日中友好病院に、肺の移植手術の権威で陳静瑜（ちん せいゆ/チェン・ジンユ）という男がいます。

両肺臓器移植を何百例も手掛けている医師だけど、かねてより人権団体からマークされている。

2/24、59歳の男性がコロナ肺炎から治ったけど、陰性になった段階で、両肺とも壊れているので手遅れ。彼を助けるには両肺を同時に移植するしかない。これが2/24に決まります。

2/29、「河南省でドナーが見つかったので、両肺移植して成功しました!」と新聞に載りました。

一見、美しい話です。美談です。でも、おかしいと思いませんか?

2/24にドナー捜しを始めて、たった5日で見つかるんですよ。

ドナー/Donner は臓器を提供する人の事。献金したり寄付したりする事をドネーション/Donationと言います。ドネーションする人がドナー。生前「ドナーになってもいい」と言っていた人が脳死状態になった時に臓器を取るのですが、いつ・どこで・誰が脳死状態になるか分からないですよ。

例えば、腎臓の待ち時間。イギリスでは1190日。アメリカでは1220日。両方とも約3年余りです。日本で腎臓移植の待機時間、何日だと思いますか? 15年ですよ。15年待っている内に、多くの方が残念な結果になる。

なぜそんなに時間がかかるのか? 臓器なら何でもいいんじゃないんです。臓器移植の前に細胞適合性をチェックしなければなりません。適合しない臓器を無理やり移植すると、拒絶反応が激し過ぎて上手くいかない。細胞適合性は、肉親・兄弟姉妹の場合は1/4の確率ですが、赤の他人だと、日本の場合1/1000。外国人が入ると1/10000です。たとえ臓器が入ったとしても、細胞適合性が合うものでないと出来ない。3年も4年も、日本では15年待たなければならない。ところが、中国では5日で揃う。

実は、共産党にとって都合の悪い人たちが数百万人、中国の収容所にプールされています。彼らは定期的に血液検査され、内臓がどのような細胞適合性かをチェックされています。そして、臓器移植の需要に応じて殺害されるのです。健康体の人が、オンデマンドで臓器を盗まれている。何のために医者になったのか。普通は、命を救いたいという高潔な志じゃないですか?

なぜ、そんな事をするのか? 以前、生きていた健康な人間から、不本意にもやむなく臓器を取り出してしまった・手伝わされた・強制されたという医師がいます。エンヴァー・トフティさん。こう言っています。「『中国では、共産党に逆らう者は国家の敵である。国家の敵は人間としての価値が無いので、何をやってもいい。いや、党に反抗する者は、人間が一番してはならない事をしているので、懲罰を加える事が良い事なのだ』と洗脳されていく。」恐ろしい事ですね。

詳しく知りたいなら、デービッド・マタスが書いた『中国臓器狩り』、日本語訳があります。一度読んでみてはいかがでしょうか。非常に正確な資料に基づいたデータが出ています。デービッド・マタスはユダヤ系の人権弁護士。“大量殺戮”と聞くと、どうしても他人事に思えない。というのは、ユダヤ人はナチスによって、一度大量殺戮されたから。

その彼が『中国の臓器狩り』の中で、「これは、ナチよりももっとひどい。」
ナチはユダヤ人が憎くて抹殺して行ったけど、中国がやっているのは、同国人に対して金儲けになるから。中国共産党の経済5か年計画の中に、臓器移植による利益計画がちゃんと含まれているんですよ。国家が組織的に、健康な人間の身体から臓器を引き抜いて利用している。
だから、“チャイナ”じゃなくて、“チャイナチ”です。

私はヒトラーを批判するのに、何の遠慮も要らないと思っていますよ。だったら、ヒトラー以上に悪い事・ひどい事をしている習近平の政権に対して批判するのは、何の遠慮も要らないんじゃないですか？これは、ヘイトスピーチではない。何回も言いますが。彼らは人間として、やってはいけない事をやっている。そして、これが再現されるのが**黙示録**の世界です。

なので、アメリカの議会では「こんな事がまかり通っていいのか!」。というのは、両肺移植で助かろうとする人たちは共産党の幹部なんです。コロナは、相手が有名人とか政治家とか選びませんよね。相手が誰であっても、ジョンソン首相でも雇ってしまう。助かりたい。金を積む。

中国の“良心の囚人”と言われている人たち・ウイグル人・チベット人・法輪功学習者と言われている人たちが、何百万人も収容所に入れられている。“メディカル・ジェノサイド”と彼は言っていました。メディカル・ジェノサイド。こんな事が許されていいのかと。

③**中国が国連機関を乗っ取っている事への怒り**；今回、WHO のテドロスさんが随分叩かれていますね。「中国寄りの情報ばかり流して、中国の宣伝機関になり下がった。世界が対応を誤ったのは、WHO が中国の発表にお墨付きを与えたからだ!」と非難を受けています。

エチオピアにティグレ族がいて、テドロスという人は、エチオピアの保健大臣になる前は、ティグレ解放戦線のメンバーでした。ティグレ解放戦線は共産党。これにお金を出していたのが中国共産党と言われています。だから、昨日今日知り合いになったんじゃない。

「だけど、WHO も中国に騙されたと言えるんじゃない?」「中国が一番の当事者でよく知っている。その中国がこうだと言ったら、それを鵜呑みにするしかないじゃないか。WHO も中国の情報に騙された被害者と言えるのではないか」と言う人もいますね。

実は去年 12 月末、「今武漢で起こっているのはこんな事だ!」という生々しい現実の情報を WHO に渡していた国があったんですね。台湾です。台湾は中国の内情を詳しく知っていたので、その情報を送りました。

つまり、WHO は知らずに騙されたんじゃない。台湾からの情報を掴んでた。なのに、わざと言わなかった。それは、中国が口止めしたからでしょう。中国の言いなりになって、事実を曲げる事に協力したという事です。

今国連には 15 の国際機関があります。ユニセフも WHO もその 1 つですね。15 の国際機関の 5 つは、その座長/委員長が中国共産党の人です。残り 10 の内 5 つは、ナンバー2 を中国共産党の人が占めている。つまり、15 の国際機関の中の 10 は中国の言いなり。

国連は一国一票です。アメリカのようなパワフルな国も、聞いた事がないような人口何百万人の小さな国も一国一票。だから、経済援助…、中国は潤沢な資金で頬を叩くようにして買収し、中国に票を入れさせる事が続いて、そうってしまったのです。国連は中国にほぼ乗っ取られているような状態。

国際機関の中に国際人権理事会があります。世界の人権弾圧を監視して調査する機関。信教の自由・言論の自由が守られているか、拷問が行われていないか、弾圧や不当逮捕がないかなどを調査・監視する機関です。これに中国が入っているんですよ。人権弾圧を監視する理事国が中国。天安門事件以来、民主派を呵責なく弾圧し続け、ウイグル人やチベット人たちを何百万人もエスニック・

クレンジングしている国が人権監視の理事国なんですね。中国に買収された国々は、中国の人権問題については何も言いません。

ここで何が討議されているかというと従軍慰安婦問題。根拠のないデタラメな情報に基づいて。この人権理事会は、対日批判の舞台に利用されています。

そして、人権理事会で頻りに討議されるのはパレスチナ問題です。「イスラエル、けしからん!」とやる。それをやると、イスラム諸国が大喜びするんです。同時に、イスラエルをバックアップしているアメリカへの牽制になるでしょ。アメリカはその有り様を見て、人権理事会から抜けました。アメリカは今、15の国際機関の内4つから抜けてる。

もう1つ。国連に国際電気通信連合 (ITU) があって、トップは中国共産党員の幹部です。今トランプ政権は、同盟国の日本やヨーロッパの政府に「ファーウェイや ZTE を使うな。これらはバックドアがあって、情報を盗まれるからやめとけ!」と言っています。「ファーウェイを採用する国々は、アメリカ政府との調達・取引をする事はできない」と駆逐しているのですが、ITUのトップは中国共産党なので「国際機関ではファーウェイを使う。」

つまり、いくら日米欧が政府の調達からファーウェイを駆逐したところで、中国側の国連/国際機関にはファーウェイが採用されるので、結局、国連の全情報が中国にダダ漏れになるのです。トップを握ったら強い。

中国はコロナ問題で、今まで以上に発展途上国に貸しを作っています。なので、もしここで何もしなければ、発生させた国が焼け太りで、終わって見たら「世界は中国を中心に回ってますわ」みたいな事になる。なので、トランプ大統領は「それはならん!」と怒っている。宣戦布告。黙っていないと思います。

アメリカには国防権限法という法律があって、それには2つの大きな柱があります。1つはFIRRMA (ファーマ)。中国の国営企業・民間企業・何であっても、アメリカのハイテク技術を持っている、又は軍事に転用されかねない製品を作っている会社の株式は取得できないという法律。

中国が急激にハイテクになった理由は、西側先進国のハイテク企業の株式で51%以上買うんですよ。自由主義経済だから、株取引は誰でも出来る。それゆえ、中国は自分で苦労して開発して来たのではなく、筆頭株主になる事で技術を吸い取って来た。これは自由主義経済の論理にのっとっているのですが、アメリカは「もう、それあかん。」中国は軍事転用できるアメリカの優れた企業の株を買う事はできない。たとえ合意したとしても、それは白紙になるんです。

もう1つはECRA (エクラ)。ところで、ハイテク製品はハイテク部品が複雑に・たくさん入り組んで、組み合わせられて出来ています。1つの企業が製品を作る時、全てのハイテク部品を自前で作れる企業はありません。それぞれの企業に一番の得意分野があって、そこから買います。

ECRAは、アメリカ原産の技術で作った部品が、その完成品の25%以上を占める場合、その製品を作ってはならない。輸出できない。

どの企業に当てはめられるのか? Entity List/エンティティ・リスト (Entityの頭にIDが付いてIdentity/アイデンティティ)、エンティティは存在。“存在リスト”って、よう分からん。

要するに、“悪の存在”から“悪”を取って、ぼかしているわけ。悪の存在。
エンティティ・リストに載った企業には ECRA を適応する。このリストにはファーウェイや ZTE を始め、
中国企業が百数十社載っています。

これは日本にも関係あるんです。例えば、アメリカの部品を 25%以上使っている日本製品を、日本から
シンガポールに輸出したけど、それをシンガポールから中国に輸出した場合、最終的なユーザーは中国
ですよ。その場合、日本は罰を受けます。エンドユース条項。最終的な行先を確認しないと売る事は
できない。

世界のハイテク企業のような製品の中に、アメリカの部品が 25%使われているけど、中国が火事場のく
そ力で代替品を使い出したので、今トランプ大統領は 25%を 10%に下げるとちらつかせている。
それされたら、何も作れませんよ。パンデミックをいかに抑えるか、の背後で何が起きているか。
つばぜり合いやん。

更に、共和党では賠償請求を訴えるって。世界中の国々に「どれだけ経済的損失があったか、全部数値化
して報告してくれ。それを全部合計したものを中国に賠償してもらう！」
中国、払いますか？ 中国はパンデミックの後、1 回も謝罪してないですよ。「書記が悪かった」って、絶対
謝らへん。謝ったら最後、非を認めた事になるとでも思っているのでしょうか。認めろやと。

アメリカ国債を世界で一番たくさん持っているのは中国ですね。それで、この国債から払わせる。
どうやって？ コンピューター、クリック一つで無効にできるんですって。
せやけど、そんな事やったら、次からアメリカ国債を買う人いなくなるんやないか？というので揉めてる。
そこで、被害額に匹敵する分の関税を米中貿易で上乘せする。上乘せで得た税金は、コロナ被害基金とし
て積み立てて世界に配分する。これやったら、皆応援してくれるんのちゃうか?!と。

つまり、アメリカはコロナが敵だとは思ってない。中国なんです。それを利用して、大国覇権を握ろうと
している中国に対して、今アメリカは手を打とうとしているのです。という事は、反撃は FIRMA と ECRA
だけではないですよ。分かりませんが、多分アメリカは、今の国連を解体する方向に動くんじゃないか
と思うんです。

今は第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時代に似ていると思いませんか？

第一次世界大戦の後、国際連盟ができました。日本は 5 つの常任理事国の中に入っていたんですよ。
国際連盟の事務次長が新渡戸稲造（にとべ いなぞう）。

ところが、国際連盟は解散・消滅します。最大の理由は、力を持った国が参加しなかったから。
第 1 番目にアメリカが参加しなかったんです。ウィルソン大統領が言い出しっぺなのに、モンロー主義で
「アメリカはよその国に首を突っ込むな」という考えがあったので、国際連盟のメンバーに入らなかった。

次に大きなロシアは共産革命になって、皆仲間に入れてくれない。ソ連も国際連盟に入らなかった。
ヨーロッパ最大の国ドイツは、第一次世界大戦の敗戦国だから、当然仲間に入れてもらえなかった。
常任理事国の日本は、「満州事変・張作霖(ちょうさくりん)爆殺事件は、全部日本の自作自演や!」と責めら
れたので、松岡洋右(まつおか ようすけ)が「連盟よ、さらば。」言うて、出て行った。

実際に世界の動きに大きな影響力を持っている国々が次々に抜けて行ったので、団体はあったけど、実

行する力が無くなって行って自然消滅。

国連はもう、骨絡み中国にやられているじゃないですか。だから、アメリカがネオ国連/第2国連を造る。第2国連の中心はG7+ロシアでどう? どうって、皆さんに言うても…。それについて行きたいと思う者はいくらでも入れる。そしたら、旧国連に残るのは中国と発展途上国だけです。このようにして、国連は権威を失って行く。これは、必ずそうなると言ってるんじゃないですよ。私の空想というか妄想です。

なぜ、こんな妄想になったかという、トランプ大統領は大統領選挙の時に何と仰いましたか? 「国連ビル返せ!」。人権のジュネーブ、政治はニューヨーク。国連本部は4つあって、最大がニューヨークの国連本部。トランプ大統領は「この建物、俺のやから返せ!」って。私、はじめ冗談やと思っていた。しかし今、冗談と思えない。「そういう深い理由があって、そのように言ったのかも知れないなあ。」だから案外、妄想で終わらないかも知れません。

アフター・コロナの時代は、米中の激突が非常に激化します。すなわち、これが終わったら、“皆ひと息ついて安心の時代”が来るんじゃないかと、 “非常に騒がしい時代”がやって来ます。アメリカと中国の覇権争いが、いよいよ激化する時代が来る。

中国が覇権を握る国に住みたいですか? それとも、アメリカが覇権を握る国に住む方がマシですか? 私は後者の方がはるかにマシだと思います。だから、今から考えておかなければならないと思うんですね。

今日のテーマは、前半は新型コロナ・パンデミック後の世界。後半はサブテーマ、世界の歴史を告げ知らせてきた聖書預言。色んな国が興っては廃れ、新しい勢力が出ては倒れ、新しい国が出来ては倒れ、新しい覇権国家が出て来て…と人類歴史はずっとやって来たのですが、この栄枯盛衰について、聖書はかねてから預言していました。

人類はやがて7年間の患難時代に入ります。この7年間は人類史上最も苦しみの時代で、7年の最後にキリストが地上再臨します。その患難時代の前に、世界は2つの段階を通過して、今とは全く違う状態になるのです。ひと言で言うと、現在約200ある国が10か国にまとまる。国連に加盟している国は196。加盟していない国も入れると約200ありますが、患難時代の前に10か国になる。これを聖書預言そのものから考えたいと思います。

ダニエル書7章。ダニエルがこの書を書きましたが、いつ書いたかが記録されています。**ダニエル7:1** **バビロンの王ベルシャツアルの元年に、ダニエルは寝床で、ある夢と、頭に浮かぶ幻を見た。それからその夢を書き記し、事の次第を述べた。**

バビロンの王ベルシャツアルの元年を西歴に換算するとBC553年で、バビロンが滅びる14年前の事です。滅亡までに14年あって、バビロンがまだ元気な時代。その時ダニエルが「これから世界がどう動いて行くのか」という預言の夢を見ました。

夢の内容を簡単に言うと、**大海から4頭の獣が上がって来る**。**4頭の獣とは、ダニエル7:17 これら四頭の大きな獣は、地から起こる四人の王である。**

ダニエルが見た夢は、彼が生きている時代から世界を制覇する 4 つの国々を、登場順に預言しているのです。それは、獣の姿を取ってやって来るという事です。

ダニエル 7:2 **ダニエルは言った。「私が夜、幻を見ていると、なんと、天の四方の風が大海をかき立てていた。」**

旧約聖書で、海は 3 つ出て来ます。

①**塩の海**；現在の**死海**。海と言っているけど湖です。塩分 28%。どんな金づちの人でもプカーっと浮いてしまう。水面が海拔マイナス 400m。地球上で一番低い所にある湖。

②**葦(あし)の海**；『人間は考える葦である』の葦。**紅海**。エジプトとイスラエルの間にある細い溝みたいな所。

③**大きな海・大海**；聖書では、必ず例外なしに**地中海**。私たちは**大海**というと「太平洋の方が大きいやん。」そういう解釈はダメなんですね。聖書は聖書で解釈しないとダメなんです。聖書でここ以外に「**大海**」と言う時、それは何を意味しているかを考えないといけないのですね。**大海**は地中海。

地中海から **4 頭の獣**が出て来る。**獣**は誰も調教する事ができない動物です。家畜は調教できるでしょ。でも、獣を調教する事はできない。暴君。わがまま。欲望の赴くままに行動する。誰かが理性で押さえつけたり支配したりできない。これが帝国の性質。

かつて、世界を支配するために出て来た国々の大王/独裁者は、皆獣みたいと思いませんか？

世界制覇する獣の国が地中海から出て来る。地中海に接している国から、世界制覇する国が 4 つ出て来る。

ダニエル 7:4 **第一のものは獅子のようで、鷲の翼をつけていた。**

第一のもの；**バビロン**。**獅子**は百獣の王。**鷲**は猛禽類のキング。バビロンが健在の時に、ダニエルはこの預言を語っています。その時、世界の中心はソ連でもアメリカでも中国でもない。バビロンです。

ダニエル 7:5 **すると見よ、熊に似た別の第二の獣が現れた。その獣は横向きに寝ていて、その口の牙の間には三本の肋骨があった。すると、それに「起き上がって、多くの肉を食らえ」との声がかかった。**

第二の獣；バビロンを倒した**ペルシア**。ペルシアは勃興する時、バビロン・エジプト・リビアの 3 つの国を倒しました。平らげた。それをこう書いています。

その獣は横向きに寝ていて、その口の牙の間には三本の肋骨があった。

アケメネス朝ペルシアは、まずバビロンを倒し、エジプト・リビアを倒して世界制覇しました。

地中海沿岸の国になっているんです。

更に、すると、それに「起き上がって、多くの肉を食らえ」との声がかかった。

3 つ以外にも食って行く。ペルシアはどこまで食べましたか？ インドですよ。ペルシアは今のイランです。イランからインドに行くには、途中でアフガニスタンを超えないとダメなんです。5000m級の巖々(がが)たる山々が果てしなく続く。それを紀元前の軍隊が乗り越えて、象の軍隊持っているインドと戦って勝つんですよ。エチオピアからインドまで全部ペルシア。

熊はライオン/獅子よりも、がたいがでかい。大ききならバビロンよりも大きい。だけど、これも倒れる。

ダニエル 7:6 **その後、見ていると、なんと、豹のような別の獣が現れた。その背には四つの鳥の翼があり、その獣には四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた。**

別の獣；次にアケメネス朝ペルシアを倒したのは、アレクサンドロス大王（BC356-BC323）のギリシア。彼は20歳（はたち）の王様ですよ。そして22歳（現役で合格した大学4年生）で、「大国ペルシアと戦争する」言うて。10年間でインドまで行って平らげました。インドの端っこを倒して「もっと行く！」と言ったけど、10年間1回も祖国に帰っていない將軍たちが「王様、エエかげんにして下さい。どこまで行くんですか。もう堪忍して下さい。」アレクサンドロス王はもっと行きたかったけど、已む無くそこでUターンして、バビロンに居を構え、ギリシア帝国/アレクサンドロスの国を造って行きます。

彼は生涯戦争に負けた事が1回もない。英雄中の英雄。僕が子供の頃『宇宙戦艦ヤマト』でイスカンダルという星がありました。イスカンダルはアラビア語でアレクサンドロス王の事です。漫画世代にまで有名なアレクサンドロス王。

彼は32歳の時、熱病で亡くなります。アレクサンドロス王の指輪は玉璽（ぎょくじ）で、印（ハンコ）はこの指輪で押すのですが、亡くなる時、その指輪を抜いて、部下のペルディッカスに渡します。ペルディッカス（?-BC320orBC321）はアレクサンドロス王の右腕。ずっと一緒に戦って来た將軍です。ギリシア軍が4列縦隊で進んで行き、敵が前から来たら、右と左に翼のように分かれて広がって行く。広がる時、右翼がアレクサンドロス王なら左翼はペルディッカス。

信頼し切ったペルディッカスに指輪を渡して託した。この段階で、王から直接信任を受けている事が分かります。何の信任か？アレクサンドロス王が亡くなる時、奥さんのお腹には赤ちゃんがいたんです。「その子が生まれて跡継ぎになるまで、後見人としてやってくれ」と匂わしながら「頼む…」と渡した。ナンバー1のペルディッカスは、重要な指輪を託された事で、ますますナンバーワン。

大王が10年間祖国を留守にして戦うって、普通の戦い方じゃないでしょ。普通は大王は王宮にいて、部下に「戦って来い」と言う。アレクサンドロス王は、そんなまどろっこしい事イヤなんです。自分が1番前に立って行った。

だけど、10年間国を留守にして、なぜ謀反が起きないんでしょう？彼の留守を預かっている人物がいたんです。アンティパトロス（BC397-BC319）。彼がナンバー2。アレクサンドロス王のお父さんの時代からずっと仕えて来た人。親子2代にわたって忠誠心を献げて来たアンティパトロスがいたからこそ、アレクサンドロス王は自由に10年間も留守にする事ができた。

アレクサンドロス王が亡くなった時、2人は「この非常に大きな国をまとめて行くために協力しよう」と、アンティパトロスの娘ニカイアとペルディッカスが婚約しました。これで、アレクサンドロス王の帝国は安泰です。ナンバー1とナンバー2が姻戚関係を結んだから。このまま行ったら分裂はなかった。

ところが、ここに厄介な人が出て来る。それは、今は亡きアレクサンドロスの産みの母親オリンピアス。彼女がペルディッカスに「あんたな、アンティパトロスの娘と婚約するのもエエけどな、もっとええ相手おるやろ!」。アレクサンドロスに妹がいたんですね。その名もクレオパトラ。ギリシアの中にクレオパトラ、いっぱい出て来るから、あのエジプトのクレオパトラとはちやいますよ。アレクサンドロスの実の妹。「妹と結婚しいや。」「でも、もう婚約してますねん。」「ほな、破棄したらかまへんがな。妹と結婚したら、あんたはアレクサンドロスのロイヤルファミリーの一員に入れるで。」

なぜそんな事を言ったのか？アンティパトロスとオリンピアスは仲が悪かったんです。

そこで、オリンピアスの勧めに従って、ペルディッカスとクレオパトラは結婚してしまった。婚約破棄。ペルディッカスとクレオパトラに子供が生まれて、その子が王位を継いだら、自分（オリンピアス）は王の母の母になれるし、アレクサンドロスの子供が産まれて王位を継ぐとしても、自分はおばあちゃんになれる。先の先まで考えたオリンピアス（BC375-BC316）は気が強い。野心家。

この女の浅はかなちよっかいに、アンティパトロスはめちゃくちゃ怒って「無礼にもほどがある！」ナンバー1とナンバー2が大戦争を始めます。ディアドコイ戦争（BC323-BC281）。アレクサンドロス王のたくさんの武将たちが、どっちかに付いて、国が割れて行く。オリンピアスが余計な事を言わなかったら、一つにまとまっていたはずなのに、それから内戦に次ぐ内戦になって、最終的には4つに別れるんです。

①**セレウコス**（BC358-BC281/在位 BC312-BC281）；バビロンから東側全部。彼はペルディッカスの部下です。ところが上司を暗殺した。ナンバー1がいなくなったから、ナンバー2のアンティパトロスが「ようやった」とバビロンを与え、セレウコスは中東一帯を治める王様になります。

セレウコスの奥さんはアパネー。ペルシア人。彼はギリシアの他の武将にはない愛妻家。妾を作らない。ペルシア人の気性・習慣を奥さんから学んで、ペルシア人が嫌がる事を一切しなかったのだから、ペルシア人にもものすごく愛された。時々戦争に負けるけど、セレウコスがバビロンから逃げて行くと、バビロンのペルシア人たちが（勝者に）「お前なんか要らんわ!」と味方になってくれて、最後まで残るのがセレウコス。

②**プトレマイオス**（BC367-BC282/在位 BC305-BC282）；彼が頭角を現したのはこういう事です。目の前でアレクサンドロス王が死んで、ペルディッカスは遺体を祖国のマケドニアに持って行こうとした。それを、プトレマイオスが途中で強奪したんです。強奪した理由は、“主権者の後見人は、その葬式を取り仕切る者である”というしきたりがあったから。

豊臣秀吉が並み居るライバルをごぼう抜きにして、一気にスターダムにのし上がったのは、本能寺にいち早く駆けつけて、織田信長の弔い合戦をやり、葬式を仕切ったからですよ。

彼はアレクサンドロス王の死体をエジプトに持って行って、エジプトに埋めますねん。そして、エジプトの王様になります。プトレマイオス朝 300年後に出て来る最後の王が女王クレオパトラ。かの有名なクレオパトラです。エジプトにいてるけど、人種的にはギリシア人。

③**リュシマコス**（BC360-281/在位 BC306-281）；武蔵坊弁慶みたいな人。総合格闘技 UFC ヘビー級チャンピオンみたいな人。とにかくめっちゃ強い。なので、国が乱れて行った時、セレウコスもプトレマイオスも、ライバルたちは皆リュシマコスに味方になって欲しい。という事で最後まで生き残ります。彼は小アジアを握りました。

ある哲学者がアレクサンドロス王の逆鱗に触れて、見せしめとして、鼻削がれ・耳削がれ・唇削がれ。見世物になって、惨めで苦しんで。可哀想に思ったリュシマコスは、武士の情けで、毒を盛って楽に死なせてやった。それをアレクサンドロス王が知った時「お前、勝手に何やってんねん!」そしてなんと、リュシマコスをライオンの檻に放り込むんですが、そのライオンを素手で絞め殺した。それを見たアレクサンドロス王が「お前は別格や」と檻から出したという話が残ってます。

④**カッサンドロス**（BC350-BC297/在位 BC305-BC297）；アンティパトロスの息子。親子で全然仲良くない。

ダニエル書 11 章になると面白くなるのですが、今日は 7 章なので、バーンとはしよりました。カッサンドロスはリュシマコスに滅ぼされて、結局 3 つになります。

世界史の教科書には“アレクサンドロス王の後、国は 3 つになった。オリエント 3 王国”のように書いてあるので、「聖書の預言と違う」と不安になる人がいるのですが、そうじゃない。初め 4 つだったんです。

なぜ、リュシマコスがカッサンドロスを倒したのか？ 実は 4 人とも考えている事は一緒。再統一して、4 か国ではなく 1 つの国にまとめたかった。それでお互いに戦って、決勝戦に残ったのがセレウコスとプトレマイオス。だけど、どんなに統一国家にしようと頑張っても、遂にかなわず、それぞれの主権国家で終わってしまうんです。6 節に何と書いてありましたか？

ダニエル 7:6 その後、見ていると、なんと、豹のような別の獣が現れた。その背には四つの鳥の翼があり、その獣には四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた。

四つの鳥の翼があり：豹は敏捷だけど、翼があったらもっと速い。アレクサンドロスは 10 年で統一した。しかし、四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた：四つの頭それぞれに主権が与えられているので、アレクサンドロスの国は 4 つに別れるという事です。

これが書かれたのは BC553 年。アレクサンドロスが出て来るのはペルシアの次、もっと後です。そんな遠い未来の事も、聖書が預言している通りに実現したんですね。

さて、最終的にセレウコスとプトレマイオスが残るけど、この 2 つを滅ぼす、より強力な国が出て来るんですね。ローマです。

ダニエル 7:7 その後また夜の幻を見ていると、なんと、第四の獣が現れた。

4 王国を倒すのはローマですが、ダニエル書 7 章はここから、アレクサンドロス王国を倒したローマではなく、そのローマの流れを汲む、人類歴史の終わりに登場する国について言及します。すなわち、患難時代の前に、ローマの流れを汲む国が登場するのです。

ダニエル 7:23 彼はこう言った。「第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。」

出て来た順番で言うとローマですが、ここでの獣はあの昔のローマではなく、“ローマの流れを汲むこれから出て来る国”という事が分かります。理由は、全土を食い尽くしと書いてあるから。

昔あったローマは全土を食い尽くした事はありません。インドまで出て行く事はできず、せいぜいユーフラテス川です。ペルシア王国よりもアレクサンドロス王国よりも、ローマ帝国の方が小さかった。ただここでは、全土を食い尽くし。全土とは全地。全地球。全世界を統治する国。

そして、これを踏みつけ、かみ砕く。

ローマは建国から滅亡まで 1200 年持ちました。帝国で、こんなに寿命の長い国はないですよ。続いた理由は、ギボンの『ローマ帝国衰亡史』に書いてあります。

ローマ帝国は、拡大して支配地を増やすに従って、時間と共にローマ市民を増やして行ったから。征服した当時は支配者と被支配者。時間が経つにつれて、被支配者にもローマ市民権を与えて行った。

後になればなるほど気前が良くなる。ローマは異民族に「自分の国だ」というアイデンティティに置き換えさせたので、彼らによって支えられたんです。踏みつけ、かみ砕く事はしませんでした。

第四の獣は地に起こる第四の国。国は単数形です。つまり、患難時代の前に世界統一政府が出来ます。これは全地を支配します。今の中国のように、非常に冷酷です。凶暴です。かつて出て来た獅子よりも熊よりも豹よりも凶暴で、誰もコントロール出来ない。これが第1段階。

「世界に今 200 の国があって、10 個に分かれる」と言いましたが、別れる前に、一旦世界は統一されます。世界統一政府の下に。ところが、今の世界見ると「そんなん、あり得へんわ。」こんなに皆自己主張強くて、中国は中国、アメリカはアメリカ、ロシアはロシア、イランはイラン。皆言いたい放題・やりたい放題。自己主張せえへん大国は日本だけやん。なので、今の状態がずっと続くと思うと、世界統一政府はあり得ないと思うかもしれません。

しかし、世界統一政府の前に、2つの大事件が起こります。

1つは携拳。携拳とは、患難時代の前に、キリストが再び空中まで来て、地上のクリスチャンたちを一挙に天に引き上げます。それは余りにも瞬間的に起こるので、気が付く人は誰もいません。気付いたら、クリスチャンたちだけいなかった、みたいな。

その結果、国の中でクリスチャンが大きな人口比を占め、且つ政治・経済・軍事の中枢部で活躍している国であればあるほど、クリスチャンが引き上げられ、いなくなったら、国力は突然落ちると思います。それがアメリカです。

アメリカは軍事でも政治でも、例えば、トランプ大統領を補佐しているペンス副大統領や、彼の周りにいる福音派と言われるクリスチャンたち。彼らは原理主義者と呼ばれていて、聖書を額面通り、全部信じている人たちです。私もそうです。

軍事の世界でも経済の世界でも、彼らは信仰を持ちながら世界で活躍していますが、携拳があったら、そのような人たちが突然全部姿を消す。人口が減るでしょう。そして、人材が忽然と姿を消す事になります。だから、その時が来たら、今のアメリカと違うアメリカに姿が変わっている。このような変化は、本物のクリスチャンが多い国であればあるほど、そうなると思います。

もう1つの事件はエゼキエル戦争。聖書預言によると、やがてロシアが、イラン・トルコ・エチオピア・スーダンの一部・リビアの一部・ドイツの一部を引き連れて、再建されたイスラエルに侵略戦争を起こすけど、イスラエルに入るや否や、8つの災害で滅ぼされます。

この時に滅ぼされるのは、イスラエルの土地に入った軍隊だけでなく、軍隊を送り込んだ本国も、天から火が降って来て討たれると書いてある。つまり、エゼキエル戦争の結果、存在しなくなる国が出て来る。それはゴグとゴグの同盟国。そのリストはエゼキエル書 38 章に出て来ます。そのメンバーを簡単にまとめると、現ロシアとイスラム教の中の非アラブの国々。イスラム教を国教にしているイスラム諸国ですが、アラブ諸国はその中に含まれていません。

ロシアと非アラブのイスラム教諸国が討たれて滅びます。アメリカも変わる。

携拳とエゼキエル戦争の結果、今強い力を持っている国々が、患難時代の前には既に一掃されて、いない。今見ている世界を前提に、これを理解しようとしても、あり得ない事に思ってしまうのです。

携挙とエゼキエル戦争、どちらが先にあるんでしょう？

携挙があってエゼキエル戦争。エゼキエル戦争があってから携挙。両方の可能性が考えられます。なぜなら、携挙はいつでもあり得る事だから。だから、この瞬間と確定はできないですね。

いずれにしても、今のメインプレイヤーたちがいなくなった世界で、大きな人口の消失や、突然国の領土が無くなる・或いは増える国もあるでしょう。大きな不安におののく人たちがいっぱい出ると思います。その中で、この世界を一つの大きな権力でまとめ、不安・パニックを抑えるために、強力な権限を持った世界統一政府が出るというのが第1段階です。ところが、

ダニエル 7:24 十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らの後に、もう一人の王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。

この国とは世界統一政府。世界統一政府は長続きしません。一度は独立国家を経験している国々が、統一政府からあれこれ指図されるのはたまったもんじゃない。統一政府に抗って行くのは単独ではできないので、恐らくグループ化が始まると思います。その結果、統一政府国家から10の国が生まれて来る。これが患難時代の前に起こる事。患難時代は10の国でスタートしているという事です。

彼らの後に、もう一人の王が立つ。10の国の独立と同時に、1人の傑出した人物が頭角を現す。つまり、10の国+1人の傑出した政治家。この人はローマの末裔です。

彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。

10の国の内3つの国の指導者を、後から来たこの人物がぶっ倒して7か国に減る。

10の国で患難時代に突入し、7つの国になるのが、ちょうど真ん中の3年半。

患難時代の3年半の時、この傑出した人物（反キリスト）が10の内3つを倒し、残りの7つは反キリストの支配下に下る。反キリストは超人的な神がかった能力で、やりたい放題の限りを尽くします。

ダニエル 7:25 いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを悩ます。彼は時と法則を変えようとする。聖徒たちは、一時（ひととき）と二時（ふたととき）と半時（はんととき）の間、彼の手に委（ゆだ）ねられる。

いと高き方の聖徒たちを悩ます。患難時代にもクリスチャンになる人たちがいますが、反キリストは、彼らが戦っても勝てない大きな力を持ちます。

彼は時と法則を変えようとする。法則はルールと訳す事も出来ます。Lawですね。

“律法を変える”と読む事も出来ます。

しかし、いつまでもそんな時代が続くのではなく、一時と二時と半時の間、これを合計すると3年半。中間の3年半の時、反キリストは神に逆らって自らを神と宣言するけど、一時と二時と半時の間だけ彼は活動できる。活動にピリオドを打つ方がやって来るのです。

ダニエル 7:26 しかし、さばきが始まり、彼の主権は奪われて、彼は完全に絶やされ、滅ぼされる。彼は反キリスト。反キリストの主権を奪い、完全に絶やし、滅ぼす裁き主とは誰か？
地上再臨のイエス・キリストです。

ダニエル 7:27 国と、主権と、天下の国々の権威は、いと高き方の聖徒である民に与えられる。その御国は永遠の国。すべての主権は彼らに仕え、服従する。

どんなに無茶苦茶やる悪も永久に続くのではなく、完全な平和と調和と正義の確立は、地上再臨のキリストによってもたらされる。これが、これから世界に起こる事です。

私はこれを信じています。というのは、今まで実現したまでの箇所は、全部正確に実現しているから。なので、これから実現する事も、必ずやって来るだろうと信じているのです。

さて、細かく分けると、キリストは3回来ます。1回目は罪を負うために。2回目はクリスチャンたちを引き上げるため患難時代の前に。3回目は患難時代を終わらせるために。

今、武田薬品が幾つかの欧米メーカーとタイアップして、新型コロナの医薬品を作ろうとしています。それは血漿分画製剤（けっしょう ぶんかく せいざい）。血漿とは血液の成分で、その中に免疫グロブリンがあります。

コロナ感染で苦しんだけど完全回復した人の血の中には、新型コロナウイルスに対する免疫抗体があると言われてしています。この人たちの血液を採り、免疫抗体を含んでいる免疫グロブリンを仕分け・抽出して、それを薬にした物が血漿分画製剤。これを苦しんでいる人に投与したら、コロナウイルスに対する抗体が入って来るので、身体の中の免疫力が活性化して癒されると言うのです。

苦しんでいる人たちを癒すのは血で出来ている。つまり、血による癒しなんですね。その血は、私たちより先に苦しんで乗り越えた人の血。その血を、今苦しんでいる人に与えると命が与えられる。

同じように、キリストは私たちのために、2000年前に十字架にかかり、苦しんで死刑にされ、死んで、よみがえって下さった。罪の苦しみを受けて、それを抜けて、復活したイエス・キリストのいのち。これは、罪の害悪で苦しんでいる人間の特効薬になるのです。1回目、キリストは私たちの罪を負うために来て下さいました。誰でも、救い主イエス・キリストを信じる者は救われます。

最後に一つお話して終わります。

I テサロニケ 5:16-18 いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい。

いつも喜んでいなさい。

こんな状況、喜べますか？ 死別・裏切り・リストラ・不合格・病気…、人生で色々な残念な事があります。聖書は「そんな事あっても、とにかく喜んでおけ!」と、そんな無茶苦茶な事を言ってるんじゃないんです。これは、「実際に悲しみとなる事が起こるけど、どんなに悲しみの事件が起こったとしても、揺るがない・変わらない事がある」と言っているのです。

私が癌になっても、変わらない事は何ですか？ 神が私を愛している事です。これは変わりません。私が愛する人と死別しても、変わらないものがあります。それは、神が私に恵み深いという事です。イエス・キリストが私の罪のために十字架にかかって、代わりに死んで下さったという事実は変わらない。

色々苦しい事・辛い事・嫌な事があるけど、それらに全く影響を受けない・揺るがない・変わらないもの。あなたのために死んで下さったイエス・キリストの愛は変わらず、あなたのためによみがえられたキリストの事実は動かず、キリストが間もなく来られるという約束も変わらないのです。

この変わらない事に、目を留めようではないか。

“神の愛は絶対に動かない”という変わらない事に目を留めている事が喜びの理由なのです。

なぜ、いつも喜んでいなさいと言っているのか？人間は喜びながら悲しむ事はできません。

喜んでいる時に悲しむ事はできないし、悲しんでいる時は喜びの理由を忘れています。

コロナ騒ぎで心が落ち込んでいるなら、「何とかして頑張れ！頑張れ！」「落ち込むな！落ち込むな！」と自分に言い聞かせるよりも、喜ぶ理由を見つめる事ではないでしょうか。

神は私たちを愛しておられる。私たちを救って下さる方です。

この方の愛は、世界で何が起っても動かない・変わらないものです。

いかがでしょう。あなたのために死んで、よみがえって、天に行かれた方が、間もなく来られます。

是非、イエス・キリストを信じて下さい。

また、聖書預言をいよいよ詳しくお調べになって、いかに揺るがない・信じるに値する書物かを、是非お知りになって下さい。

また皆様と、この会場でお目にかかる事を楽しみにして、講演を終えたいと思います。

ありがとうございました。

~~~~~  
\* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」検索。ぜひ見て下さい。

\* ラジオ番組「聖書と福音」(15分)も是非どうぞ。YouTube もあります。

動画筆記 : Rumi